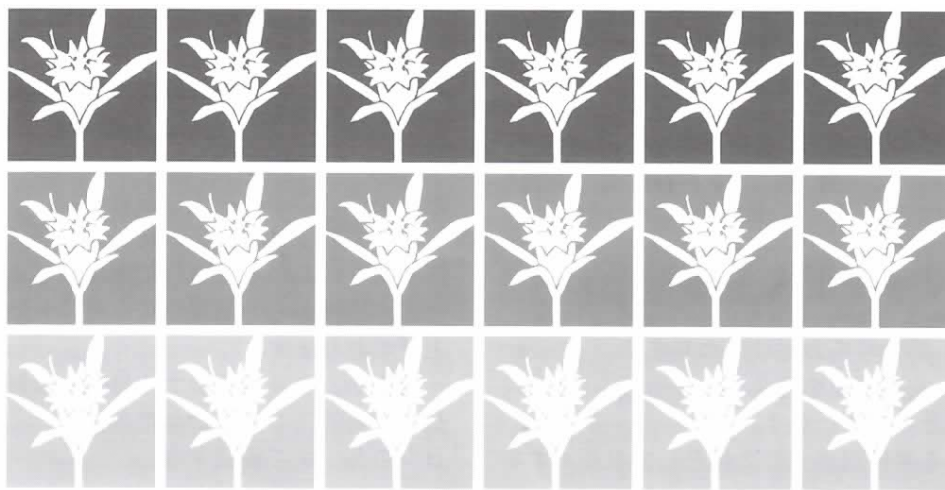




3/4の花

同窓会報

第 14 号

平成22年度総会・懇親会のお知らせ

日 時 **5月22日(土)** 総会受付 午後1時30分～
総 会 午後2時～
懇 親 会 午後3時～

場 所 **三井ガーデンホテル** (千葉パルコ前)
☎: 043-224-1131

会 費 **7,000円** (当日受付にてお支払いください)

懇親会だけの出席也大歓迎です。恩師の先生方も多数ご出席いただいております。
卒業生はどなたでも出席できますので、お誘い合わせの上ご来場下さい。
お問合せ・お申込みは、5月15日までに同窓会事務局 (☎: 043-251-9221) へ。

「シャロンの花」は校歌の歌い出しです。

昭和26年、創立10周年記念に制定されました。当時教頭でいらした沢田繁二先生作詞のこの校歌は、他校にはない美しい響きを持つ詩で綴られています。同窓会報を創刊するにあたり、懐かしい言葉「シャロンの花」をタイトルにいたしました。

シャロンは、イスラエル西部の地名です。その地に咲く白い可憐なシャロンの花は、旧約聖書で「純潔」の象徴とされています。

平成22年3月9日発行

(表紙タイトル・イラストデザイン 昭和35年卒 北川広志)

発行者 千葉県立千葉東高等学校
同窓会会長 井戸川 浩

編集部 千葉県立千葉東高等学校同窓会事務局内
〒263-0021 千葉市稲毛区轟町1-18-52
TEL 043-251-9221 FAX 043-255-6575

印刷所 株 宮坂印刷 TEL 043-251-4537 FAX 043-251-4535

平成21年度 千葉県立千葉東高等学校同窓会総会報告

日 時 平成21年5月23日(土) 13:30～17:00

場 所 三井ガーデンホテル千葉

参集人員 70余名の多くが参集。

ご来賓の先生のご芳名(敬称略)

井下田 博、白銀彦太郎、奥山 浩、石川 宏、
野村 柔、丸 尚作、野村 典平、青山 克、
江口 憲治、氏家 憲二、鈴木富士夫、須田 義男、
斉藤志貴雄、高橋 浩司、畠田 侑児、高野だいわ、
五十嵐和廣

母校在任中の先生方

玉造校長、杉本教頭、三木教頭、神尾事務長、高橋先生、
田島先生、他

ご来賓挨拶要旨(須田義男先生)

40周年の時の校長でした。これから70周年を迎えるにあたり思いも多い。校長として四校歴任したうち三校で記念式典を経験した。同窓会への出席は昔馴染みに会えるうえ、当時の思い出に浸ることができてとても若返る。

自分の現在を忘れて、いつまでも、昔の先生に戻ってしまうが、母校の発展、生徒の活躍を知るにつけ、自分のことのように心が躍る。今後ますますの発展を祈りたい。

議 事

1. 平成20年度決算報告(下記資料の通り)
2. “ 会計監査報告(下記資料の通り)
3. 平成21年度予算書(下記資料の通り)
4. 平成20年度事業計画実施状況(下記資料の通り)



年度幹事引継式

5. 平成21年度事業計画(下記資料の通り)

上記は一括審議され、提案通り可決しました。

尚、事業計画のうち、会報“シャロンの花”発行については、通信費の負担が大きく財政を圧迫していることから、財政改善策として平成23年発行の第15号から平成22年の寄付金納入者にのみ送付し、そのことの告知(全員周知)を平成22年発行の第14号とする旨提案され、異議なく了承されました。

懇 親 会

- アトラクションは澤田繁信同窓会幹事(高校第23回S46卒)の紹介によるアフリカコンゴ民主共和国から来日しているB.B.モフラン氏*とその活動を支える副市長(当時)も交えた共鳴者とともにパッカーション演奏で盛り上がりました。(同窓会からも学校建設資金の一部にと寸志を送りました。)
- 各テーブルでは恩師の先生を囲んで談笑したり、同期生同士が無沙汰情報交換などで旧交を温めあったりして時の経つのを忘れていました。
- 年度幹事引き継ぎ式 今回幹事役をした年度幹事代表小野豊喜氏(君津高校長)から次年度幹事の第21回生(昭和44年卒)の山中 操氏(千葉県議会議員)、中村千枝子氏(衛生看護科第1回生)への引き継ぎ式が行なわれ、両氏から力強い決意表明を得ました。
- 最後に、参会者全員で恒例の母校の校歌を歌い、来年の再会を約して散会となりました。



*B.B.モフラン 内戦後のコンゴの子供たちに学校を建設するための資金を得るために1983年来日。渡辺貞夫と共演して絶賛、劇団四季のミュージカル“ライオンキング”初代パッカーション奏者として出演。NHK出演など各地でチャリティー演奏しています。



平成20年度千葉東高等学校
同窓会決算書

総 収 入 ¥8,624,849
総 支 出 ¥7,793,586
残 額 ¥ 831,263 … 次年度へ繰越

収入の部
(単位：円)

項 目	収入済額
1. 繰 越 金	14,508
2. 会 費	972,000
3. 入 金	162,000
4. 同窓会活動維持基金	1,604,000
5. 総 会 会 費	700,000
6. 広 告 代	120,000
7. 雑 収 入	52,341
8. 基金繰入金合算額	5,000,000
計	8,624,849

支出の部
(単位：円)

項 目	支出済額
1. 運 営 費	1,200,519
(1) 会 議 費	0
(2) 総 会 費	538,000
(3) 通 信 費	257,790
(4) 慶 弔 費	313,592
(5) 旅 費	1,500
(6) 雑 費	89,637
2. 事 業 費	3,193,067
(1) 同窓会報発行費	2,748,067
(2) 母校部活動支援費	345,000
(3) 海外派遣支援費	100,000
(4) 借 入 金 返 済	3,400,000
計	7,793,586

基金繰入金会計
平成21年 3 月末現在 ¥4,868,627
(単位：円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	9,861,076	0
利 息	7,551	
一般会計貸付額		5,000,000
計	9,868,627	5,000,000

差引残高 4,868,627円

創立70周年記念事業基金
平成21年 3 月末現在 ¥7,170,292
(単位：円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	2,969,032	0
利 息	5,260	
今年度入金分	796,000	
貸付金回収*	3,400,000	
計	7,170,292	0

*維持基金への貸付金の回収

会計監査報告
平成20年度同窓会会計の出納簿、証拠書類
及び預金通帳等を詳細に検査した結果、処
理が正確であり支出も適正であることを認
めたので、ここに報告致します。
平成21年 5 月15日
千葉県立千葉東高等学校同窓会
会計監査 時田 拡 央 印
澤田 繁 信 印

基金繰入金会計
平成22年 3 月末現在 ¥4,874,627
(単位：円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	4,868,627	0
利 息	6,000	
計	4,874,627	0

平成21年度千葉東高等学校
同窓会費予算書

収入の部
(単位：円)

項 目	収入済額
1. 繰 越 金	831,263
2. 会 費	972,000
3. 入 金	162,000
4. 同窓会活動維持基金	1,900,000
5. 総 会 会 費	800,000
6. 広 告 代	150,000
7. 雑 収 入	200,000
計	4,915,263

支出の部
(単位：円)

項 目	収入済額
1. 運 営 費	1,260,000
(1) 会 議 費	100,000
(2) 総 会 費	500,000
(3) 通 信 費	250,000
(4) 慶 弔 費	300,000
(5) 旅 費	10,000
(6) 雑 費	100,000
2. 事 業 費	3,300,000
(1) 同窓会報発行費	2,800,000
(2) 母校部活動支援費	300,000
(3) 母校教用具支援費	100,000
(4) 海外派遣支援費	100,000
3. 予 備 費	355,263
計	4,915,263

創立70周年記念事業基金
平成22年 3 月末現在 ¥7,170,292
(単位：円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	7,170,292	0
利 息	6,000	
今年度入金分	800,000	
計	7,976,292	0

平成20年度事業計画実施状況			平成21年度事業計画		
1. 総 会 平成20年 5 月24日（土）			1. 総 会 平成21年 5 月23日（土）		
三井ガーデンホテル千葉にて			2. 同窓会会報「シャロンの花」第14号発行		
100余名が参集して実施			(平成22年 3 月 予定)		
2. 母校教育活動の後援、学校行事参加活動			3. 同窓生・恩師対外発表会等参観支援・顕彰活動		
①部活動（全国大会出場）支援			4. 同窓会維持基金、創立100周年祈念70周年記念事業基金等募金活動		
山岳部 全国総体出場（男子 3 位、女子 3 位）			5. 母校教育活動の後援、学校行事参加活動		
②海外留学引率者支援			①進路学習後援		
H21. 3. 15から25日までの12日間、10名の生徒がミシガン州クラークストン高校へ派遣された。			②部活動（全国大会出場等）後援		
③対外試合・発表会等参観・支援			③海外留学（短期ホームステイ）引率者後援		
関東大会以上に出場した部活は、陸上部、水泳部、山岳部、美術部であった。			④対外発表会等参観・後援		
④卒業式・入学式・体育祭・文化祭等行事参列・参観等			⑤卒業式・入学式・体育祭・東雲祭等行事参列・参観等		
H20. 4. 8 入学式参列／H20. 9. 6 東雲祭参観／			6. 創立100周年祈念70周年記念事業推進活動		
H20. 7. 16・H20.10.30・H21. 3. 12 開かれた学校つくり委員会出席／H20.10.30 東雲ネット“さわやかミニトーク”参加／H21. 3. 9 卒業式参列			7. 支部発足支援活動		
3. 同窓会会報発行			8. その他必要な活動		
H21. 3. 9 “シャロンの花” 第13号 19,000部発行			9. 役員会 原則隔月第二日曜日（8 月・1 月休会）		

特別インタビュー

母校は今...

玉造校長に聞く



(2010.1.20 母校校長室にて。聞き手：井戸川同窓会長)

昨年4月に、新任の校長先生として、玉造校長先生が着任されましたことはご高承の通りです。

着任後約10カ月を経過し、学校を取り巻く様々な事情も理解されたことと思います。

そこで、新たな気持ちで学校経営に臨むご方針についてお聞きしました。

同窓会に感謝しています

井戸川：いつも同窓会の活動に暖かいご理解をいただきありがとうございます。

今日は、新任としてご着任から10か月が経過し、母校の状況も把握されたことと思い、母校運営についての先生のご感懐・方針などお聞かせいただきたいと思います。ご着任時の感想はどんなだったのでしょうか。

玉 造：そうですね。はじめに、同窓会会員の皆様には本校の諸活動に対する物心両面にわたるご支援に心から感謝の意を表したいと思います。

五十嵐先生からも引き継ぎを受けましたが、同窓会が非常に良く学校運営に協力してくれているなという感想を持ちました。

過去に歴任した学校では多少その間合いの取り方に苦労したことがあったのです。

井戸川：それはありがとうございます。

私たちは母校の発展すなわち優秀な生徒の輩出について、生徒が優秀で熱意と指導力のある先生方の良き指導を得ていることに感謝しております。

有為転変が自助努力する心を育てた

玉 造：着任して最初に感じたのは、交通便利な千葉市の中心部にあって、都会的ながら緑が多く、街のたたずまいも落ち着いていて、生徒にとっては実に羨ましい学習環境だなということです。

また、私は歴史を学んできたものとして、着任するとすぐにその学校や地域の歴史を勉強します。記念誌などによると、本校は昭和16年に高等女学校として誕生し、その後師範科を経て、市立から県立へ移管、中心部から現在地への移転、共学化、通信制や衛生看護科の併設と他校へ移管。また近年では二学期制と単位制の実施等実に目まぐるしく変遷していますね。

生徒はもとより、歴代の校長先生方や教職員の方々の

ご尽力も大変だったと思いますが、そのことがそうした有為転変から自らを脱皮させる原動力になった、それが逞しいエネルギーな校風として受け継がれてきたのではないかと思います。

ノーブレスオブリッジとしての“文武両道”

井戸川：時代の要請に柔軟に対応してきた、そういう能力もあったということでしょうか。

教育目標についてはどうでしょうか？

玉 造：教育目標としては「知育・徳育・体育のバランスを極めて高いレベルで実現し、全人的で視野の広い人間の育成に努める」ということを標榜し、それを“文武両道”と表現していることはご高承の通りです。

“知”については、単に大学に合格するという目的のためだけではなく、そうした“知”をどう生かすのか、社会の諸現象は今学んでいる“知”とどのようにリンクしているのかなど“知”のレベルが高いほど、徳・体のレベルもそれに対応して高くなければならないと要求しています。

端的に言えば、(一流大学へ入れるほど)成績がいいから他の事は何もしなくていいといった誤解をしないようにしたいのです。

知・徳・体の能力が高ければ高いほど人間として社会的責任を率先して負うということが大切で、教師もそうしたことを教導していくことが求められます。

井戸川：つまり、ノーブレスオブリッジのような。

学校行事への積極参加が生徒の人間の幅を広げる

玉 造：まさにそうですね。校内でいえば、学校行事への積極参加のようなことです。

進学指導重点校として指定されているからといって、そのみに偏らず、学校行事への参加は進学指導と同等に扱われるべきであると考えており、先生方にもそれをお願いしています。

部活動は当然のこととして、例えば東雲祭は全校生徒がそれぞれの集団内でリーダーや縁の下の力持ちなど、パートパートがうまくまとまらないと完成品にならないことを学びます。

東雲祭当日までの計画から準備、そして当日の発表までの共同作業が重要な教育的効果をもたらすからです。この作業には中学校のように教師はあまり関与せず、自力更生というか「失敗の経験も良し」という姿勢で見守ります。でも、失敗しないんですね。互いに良く協力し合うからでしょう。これこそが教育目標に沿っていると思います。こうした共同作業の機会は、実は高校時代のこの時しかありません。千載一遇のチャンスなのです。

井戸川：この時期は新型インフルエンザなど外的には警戒すべき状況があったのではありませんか。

陸上競技大会始め、修学旅行も実施できたそうで喜ばしい限りですが。

玉 造：まさにそれが大きなリスクでした。しかし、“天は自ら助くるものを助すく”ではないですが全校の努

力と願いが通じたのか、他校では各種行事の中止を余儀なくされたところもあったようですが、本校は幸いにも中止を決断する実情にならずに済みました。

井戸川：ほかにこうした行事はありますか、たとえばインターンシップ制度のような。

玉 造：厳密な意味での「行事」ではありませんが、国際交流やSPP（サイエンスパートナーシッププログラム）などもあります。インターンシップ制度ももちろんあります。

インターンシップ制度では、受け入れる企業や団体の許容量に左右されますが、公募により実施しています。本校では、理系では放射線総合医学研究所（放医研）、日本歯科大、千葉大園芸学部などに21名、文系では千葉地方裁判所、千葉地方検察庁、弁護士事務所などに17名です。

SPPは、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が次世代を担う若者への理数教育の充実に関する施策の一環として行われるもので、いくつかのテーマに希望者が応募し、観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な学習活動を行う企画に支援してくれるもので、授業の枠組みだけではできないものができるという利点があります。

例えば、理論を大学の先生の講義で学び、それが実際に使われている現場へ出かけ見学もしくは実習し、それをまとめて発表し、質疑応答をする（プレゼン能力の付与）というものです。これも共同作業もあり、自ら「なぜ？」を見つけて解決するというなかなか楽しいものです。

こうした全人教育というか人間としての本質的なもの、根源的なものを学んで、社会性や人間性豊かな生徒の育成を図ることを「教養の復興」として拡充しています。

井戸川：ところで、進学指導重点校としての今年度の生徒の進学状況はいかがですか？

玉 造：進学指導重点校として指定された成果としては、下表の通りです。

県下トップの現役進学率 75.0%（前年70.7%）

年 度	国公立大学	私立大学	現役進学率
H13年	73名	412名	56.9%
H14年	59名	333名	53.7%
H15年	81名	402名	58.0%
H16年	106名	423名	68.9%
H17年	96名	630名	76.6%
H18年	94名	532名	69.3%
H19年	96名	584名	70.7%
H20年	103名	607名	75.0%

上表のごとく平成15年に指定校になってから17ポイント上昇した現役進学率になっています。

井戸川：年々現役進学率が上昇しているということはすばらしいことですね。

生徒の努力は当然として、指導に当たられる先生方のご努力やご負担は大変なものですね。

教職員の献身的努力なしには実現しえない

玉 造：そうです。指導に当たられる先生方やサポートする事務職員の献身的な努力なしにはこういう実績は実現しないでしょう。

各種補修の充実は目を見張るものがあり、こうした環境で学習に専念できる生徒は幸せだと思います。反面、指導にあたる教職員の負担の軽減、もしくは熱意・情熱の再生産をどうするかというのが大きな課題です。同窓会の皆さんからのエールはありがたいと思っています。

どうかこれからも教職員に温かいご支援をお願いいたします。

井戸川：はい、生徒の資質が良いとはいうものの未熟な少年・少女ですから、優秀で熱意と指導力のある先生方の指導次第で良くも悪くもなってしまうのだと私たちも認識しています。

そうした先生方の献身的な取り組みや熱意に対しては同窓会挙げて感謝の意を表したいと思っています。

「教職員の皆さんを尊重する」「（良い生徒に指導してくれて）ありがとう」の気持ちを声や態度に出して表わすということが同窓生としての態度なのだと思います。最後に同窓会に対して何かご希望がありましたらお聞かせ願えますでしょうか。

活躍する卒業生の生の声を生徒たちに聞かせてやりたい

玉 造：はい、本校の歴史や変遷、更に卒業生名簿などを拝見して思うことは、実に多くの逸材が本校を卒業し、日本はおろか世界中で活躍しておられますね。「教養の復興」の一環としても、そうした方々の生の声を生徒に聞かせることはできないだろうかと思っています。

現在でも各界の方々を招いての講演会はありますが、やはり本校を卒業された先輩の生の声は生徒を刺激すると思うのですが。

井戸川：はい。まさにその通りですね。70周年記念事業で会員名簿を作る計画になっていますのでその計画も織り込んだ名簿作りになるように検討を進めます。良きご示唆をいただきました。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。母校のますますの発展を期待しています。



卒業生バンザイ (その1)

西安からの手紙 ……

母校卒業生で、母校でも教鞭をとり、最後は千葉県立佐倉東高等学校長でもあった同窓会役員 木村行幸先生(高校第18回S41卒)が、「日本という国を理解してもらいたい」という一念で、単身、中国に赴き西安外国語大学で日本語教育に携わっています。

今日はその草の根の日常をご紹介します。

中国の状況は日本ではあまり報道されていませんので、その一端をご紹介します。バスに乗車する度に感心することがあります。それは私が乗車すると必ず若者・中年の人々が「どうぞ、お座りください。」と丁寧な中国語で話しかけ、席を譲ることです。儒教の精神が脈々と受け継がれています。私が日本人であることを知って席を譲るわけではありません。日本人も中国人も顔を見ただけでは区別が付きません。宿舎近くの小学校の外壁に「老人と子供」の絵と「お年寄りを大切にする」の大きな文字が書かれています。日本ではこの「敬老精神」の実践がかなり欠けているのではないかと思いを抱くようになりました。

次に私が指導した大学生の活躍を記述いたします。

昨年10月17日(土)、女子学生より「第5回中国人の日本語作文コンクール(学生の部)」で2位の連絡が、日本から今ありました」との報告を受けました。1位だけが副賞として日本研修旅行があります。大魚を逃しました。頂点に立てませんでした。が、「人口13億で2位だから、まあいいか。」と思うことにしました。

翌日の10月18日(日)、「第16回陝西省大学生日本語スピーチコンテスト」がありました。勤務校の西安外国語大学の学生が「1位(4年生)、2位(3年生)、3位(4年生)」と上位を独占しました。この大会でも私が指導した3年生の学生は僅少の差で2位。1位になれず日本語研修旅行を逃しました。2位の女神が私にまわりついているようです。教師が学生の話をよく聞き、高い目標を掲げ、ともに努力する当り前の指導の連続が、良い結果を生むことを久しぶりに体験しました。

西安近辺には様々な名跡があります。1月上旬、韓城市(西安より凡そ300キロメートル)に出向き、黄河龍門の峡谷と司馬遷祠を見学しました。黄河龍門は川幅が急に狭くなり、河が曲がる場所であり、魚がこの場所を上るのも容易でなく「登竜門」の故事が出来たこともうなずけました。故人は谷間に響く激流を「咆声如雷」と表現していましたが、目の前の真冬の黄河は凍りついていました。

司馬遷の墓がモンゴル草原の住まいのパオの形をしていましたので、奇異な感じを受けました。

ガイドは次のように説明しました。「チンギスハーンが史記にモンゴル人が勇敢な民族とし記述しているのを読み、感激し、司馬遷に敬意を示す為に墓を作り直した。」又、境内には次の説明書きがありました。「●宮刑となった司馬遷は一族が自分の罪で処罰されるのを恐れ、司馬と名乗ることを禁じ、一族を司馬の「司」に1画を加えた「同」と名乗らせ、又、「馬」に2画を加え「ふう(ニスイに馬)」と名乗らせた。又、司馬遷は自己の体験から一族に災難を受けやすい役人になることも禁じ、西安から遠く離れた(250キロメートル)場所で、農民の生活するように命じた。今でもその地に両家は生活し、合同で祭祀を行い、両家の結婚は禁止されている。現在は司馬の姓はない。」中国の大地と歴史の懐の深さにしばしば感服します。

草枯るるパオの形の司馬遷祠



第16回陝西省大学生日本語スピーチコンテストを終わって

あなたが住みたい町のアパート・マンション
お部屋探しを応援します!!

ISO9001認証 千葉県知事免許(10)5206号
株式会社 **高品ハウジング**
同窓会副会長・県議会議員 山中 操
千葉市若葉区高品町1585-1 ☎ 043-232-0006
bayfm78 & 千葉テレビ 毎週日曜 22:00~22:30
当社提供『村口史子のグッドゴルフ』にて CM放送中

JR京葉線 **蘇我駅東口前**
アパートマンション分譲住宅
おかげさまで創業43年
不動産の売買・仲介
賃貸借・総合管理の
ことならおまかせ!

堤 清司 (昭和53年卒)

三幸商事株式会社
サンコーサンコー 〒260-0842
TEL.043-263-3535 千葉市中央区南町2-17-11
FAX.043(265)4488 http://www.sanko-shouji.co.jp

卒業生バンザイ (その2)

同期二人が活躍する がんばれチーバくん ゆめ半島 千葉国体2010

(第65回国民体育大会 第10回全国障害者スポーツ大会)

若潮国体(昭和48年第28回大会)から37年ぶり2回目の開催となる千葉国体。その舞台回しの行政側でご尽力いただいている二人の母校卒業生にお聞きしました。

一人は千葉県庁で「千葉県 国体・全国障害者スポーツ大会局長」として県下全体の調整にあたっていらっしゃる名輪淑行さん、もう一人は主要開催地でもある千葉市の旗振りをされている千葉市役所「千葉市総務局市長公室長」の田野 護さんです。奇しくもこのお二人は昭和46年卒業の高校第23回の同期生でした。

それぞれお忙しい中ですので個別にお会いする時間差インタビューとなりましたが、読みやすいようにバーチャル鼎談形式に構成いたしました。(所属を県と市で区分表示しました)
(2010.2.5. 千葉県庁、千葉市役所にて。聞き手 井戸川同窓会長)



井戸川：どうも、お忙しいところ恐縮です。今日は37年ぶりの国体に県で名輪さん、市で田野さんという母校同期コンビがご活躍ということを元校長の荒川先生からお聞きし、是非国体ならびに障害者スポーツ大会に臨むお気持ちをお聞きしたいと思ってまいりました。よろしくをお願いします。

名輪(県)：こちらこそよろしくお願ひいたします。いつも会報を拝見しております。

田野(市)：わたしも会報をいつも拝見しています。今日は国体のPRにもなり大変ありがとうございます。

井戸川：まず国体の歴史と今回の大会に臨むお気持ちを名輪さんから。

昭和21年 敗戦後の国民に希望と勇気を与えた



名輪(県)：はい、詳しくはホームページ「千葉国体」[検索](#)を是非ご覧いただきたいと思いますが、かいつまんで申し上げますと、そもそも、国体は戦後の混乱期の中で国民に希望と勇気を与えるため、昭和21年に京阪神で第1回大会が開催され、その後各県で順番に開催されるようになりました。

昭和23年には都道府県対抗方式が導入され、天皇杯、皇后杯が創設されました。

国体は、財団法人日本体育協会、文部科学省、開催地都道府県の三者による開催ですが当然のことながら開催都道府県の取り組みが大切です。

知事が総指揮官となり県下の市町村、学校、団体などを挙げて取り組みます。その中で、私は、千葉県としての企画調整や推進役の役割をはたしています。多くの方々にこの大会を通じて千葉県の良さをアピールしたいですね。



井戸川：障害者スポーツ大会も併催されていますね。

『開催期間』 国体：9月25日～10月5日
全国障害者スポーツ大会：10月23日～25日

名輪(県)：はい、これは従来「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」が別々に開かれていたものを平成13年に統合して「全国障害者スポーツ大会」となり宮城県で第1回が開かれました。以後国体終了後に3日間の会期で毎年開催されています。この大会は、厚生労働省、財団法人日本障害者スポーツ協会、開催地都道府県との共催です。

井戸川：国体が開催されるまでの準備期間は相当長いのではないかと思います

15年を経てようやく開催

名輪(県)：はい、国体招致が県議会で決定されたのが平成7年です。平成8年に「開催要望」を体協(財団法人日本体育協会)に出し、内定が来たのが平成17年、平成19年に正式決定されました。多くの方が来られるということは、経済効果が高いということで、各県それぞれ開催を希望しておりますので中々順番がまわってきません。

一方、事務方の準備と申しますか、平成15年には準備委員会ができて開催に当たっての要所のチェックなど準備に入り、現在の局の規模になりました。

田野(市)：前回の「若潮国対」が37年前ですから当時新人だった方が今度は定年退職の時ようやく2回目を見られるというぐらいのインターバルですね。

千葉市では平成19年に国体推進課を作り本格的な準備をはじめました。障害者スポーツ大会は保険福祉局が担当しますので、県と合同で実行委員会を立ち上げております。

国体には、市の職員だけでも延べ3000人が様々な形で従事します。これに加え、ボランティアの方々を5000人程度募集しております。

井戸川：皇族の方々もお見えになられるとか

天皇皇后両陛下をはじめとする皇族のご来県

名輪(県)：国体では全正式競技の、男女総合優勝に天皇杯が、女子総合優勝に皇后杯があります。千葉マリスタスタジアムでの開会式には両陛下がお出ましになられ、全国障害者スポーツ大会の開会式は幕張メッセで行われますが、こちらには皇太子殿下ご夫妻がご出席されるのが通例です。

このほか皇族の方々を始め、各地からいわゆるVIPの方々が来県されますし、観戦もされますので、警備等を含め大変緊張します。

開催地と言いますか正式競技以外にも含めると競技場を持つ市町は40以上にわたり、国体の監督や選手だけで

も22,000人ほど、関係者を入れると県下全体で50万人ほどが往来するのではないかと思います。

田 野(市):千葉市では、陸上競技をはじめ6競技種目が行われますので、選手その他で11万人位が来られると思います。

井戸川:初歩的なことをお聞きしますが、競技の観覧は有料でしょうか

名 輪(県):原則的には無料です。一部有料の物もあります。有料なのは開会式や硬式野球ですね。

井戸川:開会式には何かイベントがあるのでしょうか。

ドリカムのイメージソングの合唱も

名 輪(県):はい、開会式では県下の中高校生ら250名からなる合唱団が編成され、国体のテーマソングである“若い力”をはじめ、いろいろな歌声を聴かせてくれます。市川市にゆかりのあるドリカムの中村正人さんが両大会のイメージソングとしてCARNABAL(カルナバル カーニバルという意味)を作ってくれました。また県内各地の郷土色溢れる演芸なども披露され、お集まりのお客様に千葉のおもてなしの心を表します。母校千葉東高をはじめとする県内の高校いくつかにはこの式典のお手伝いをお願いする予定です。

井戸川:田野さん、さきほど、運営サポートやボランティアの一般の方々が5000人というお話がありましたが、すでにそれだけの方が集まっているということでしょうか。

チーバくんどリームス 東高卒業生のボランティア熱烈募集中!

田 野(市):はい、千葉市では“チーバくんどリームス(ゆめ半島千葉国体千葉市サポート会員)募集”ということで募集を始めています。各市町村でも同様に募集すると思いますが、これからが本格的になると思います。詳しくはホームページ [チーバくんどリームス](#) [検索](#) をご覧いただくか、千葉市国体推進課(043-245-5985)へお問い合わせください。やはり傍観しているよりも実際に中に入って盛り上げたほうが何倍も楽しいものです。是非“シャロンの花”をご覧になっている東高卒業生の方々も一人でも多くの方が応募してくれることを願っています。県民挙げて楽しい国体・スポーツ大会にしたいですね。

千葉市の例で言いますと、ボランティアには2種類ありまして、一つは“運営ボランティア” もう一つは“応援サポーター”です。運営ボランティアは、期間中2日以上活動できることが条件で、競技の準備・運営、たとえば案内所等で選手・来場者の受付・案内や会場整理などです。応援サポーターは年齢問わずですし義務付けられた活動はありません。国体応援グッズをつけて、国体開催の周知、試合を観覧したり、来県者に(聞かれれば)案内したりという自分にできることをしていただければいいのです。実は、やってみるとわかりますがこれも結構楽しいのです。

井戸川:どちらも楽しそうですね。他県からくる人や、選手と知り合いになれるチャンスもありますね。“応援サポーター”は、ほんとに誰でもでき面白そうですね。

ところで、“千葉のおもてなしの心”とは具体的には

どんなことを期待していますか

千葉のおもてなし 声掛け

田 野(市):簡単です。声を掛けてあげてください。私も新潟国体や大分国体の視察に行きましたが、現地ではあちこちから「こんにちは」とか「良く来ていただきました」とか「楽しんでください」など声をかけてもらい、とても嬉しかったのです。「ああ、みんな歓迎してくれているんだな」と思っただけで、心が温かくなりましたね。それで、千葉のおもてなしは「声掛け」です。選手や関係者は皆一目で分かるユニフォームやバッジのようなものを身につけていますから、「こんにちは」「ようこそ」とか「頑張ってください」とか「お疲れさまでした」とか、声をかけてください。それだけで、皆さんは心が温かくなり、「千葉っていいね」という気持ちを持ってもらえます。

井戸川:声掛けは肥掛け、心の肥料、やる気のエンジンですね。今の時代、家庭の中でも学校でも、いや社会全体でも必要な心がけですね。

ところで、国体出場選手で後にオリンピックメダリストになられた方も多いと思いますが本県関係ではどうでしょうか。また本県の注目選手などもご紹介ください。

将来のオリンピック選手も

名 輪(県):そうですね、過去には第37回鳥根くにびき大会での鈴木大地選手(市立船橋高校)がソウルで100m金メダル、第46回石川国体での室伏広治選手(成田高校)がアテネで金メダル、第52回大阪なみはや国体では高橋尚子選手(積水化学)がシドニーで金メダルでしたね。

田 野(市):千葉市での開催競技種目では、セーリングで磯辺高校、これは大分国体で優勝していますね。今回は普段練習している海面ですから地の利がありますね。ボウリングで千葉明德高校2年の向谷さんが国際大会でも活躍していて、試合会場も慣れているリバーレーンですから楽しみです。あと、千葉東高校の選手の出場に期待したいですね。

本県ばかりでなく全国を見るとオリンピック有望株が沢山いますからこれも見所ですね。

井戸川:長時間にわたるインタビューをありがとうございます。これからが正念場だと思いますので体調に留意され、良い大会になるよう活躍されるよう期待しています。本日はありがとうございました。



「こちらこそよろしく」と田野さん 「どうぞよろしく」と名輪さん

同窓会からのお知らせ

1. 会報の発行方法が変わります

同窓生の皆様には、長年にわたり母校愛溢れるご厚志をいただき感謝に堪えません。

お陰さまで、会報「シャロンの花」も14号を数えるまでになりました。

しかしながら、この会報を皆様お一人お一人のお手元まで配布するためには、多額の送達コストがかかっており、会報発行費用総額の70%近くを占めております。このことは、会報の発送コストが母校生徒の活躍を支援する費用を圧迫する構造となっていることを示しています。

同窓会としては、この構造を一刻も早く改善し、対外試合や部活動への支援額が縮小されてしまうことのないようにしたいと考え、いろいろと協議してきました。そこで、平成23年発行の第15号から全体配布は隔年とし、前年にご芳志をいただいた方に限り翌年発行の会報をお送りするという措置を講じることといたし、平成21年5月23日の同窓会総会でご決定いただきました。この措置は同窓会財務が改善されるまで当分の間継続いたします。

母校は、進学指導重点校として国公立大学への進学率が県下一という実績のある学校ですが、教育方針として「文武両道」の名のもとに、勉強すなわち「知」ばかりではなく、人間として大切な「徳」や「体」についても部活動等を通してバランスよく教育し、各界のリーダーを育成していくという特色ある指導方針を持ち、かつ、実績もある高校であります。

母校を愛する卒業生の皆様には今回の措置についてご理解をいただくとともに、母校の発展に何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

2. 同窓会名簿を発行いたします

同窓会では、母校創立70周年を記念して同窓会名簿を発刊するべく準備中であります。

前回発刊は創立60周年時でしてから実に10年ぶりの発行となります。

この間、消息的異動や住所の変更もあり、新たに卒

業された新会員の同窓生は3000人を超えております。これらの改訂・増補のご要望も多く、70周年を期して新名簿を作成することを役員会で決定いたしました。

名簿作成に当たっては、会員個々に掲載希望の有無や掲載内容へのご同意をいただき、個人情報の保護には万全を期してまいりますことは言うまでもありません。

平成22年春より「会員名簿作成用調査ハガキ」をお送りいたします。正確な情報を名簿に反映するため、各位よくご確認いただきお返事いただきますようお願いいたします。

なお、名簿作成業務につきましては、前回同様(株)サラトに調査作業、各種付随事務、印刷、発送まですべて委託しております。(それ以外の会社・団体に委託することはありませんのでご注意ください)

何卒、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

3. 住所・姓名などの異動変更をお知らせください

卒業後、住所や姓名などが変更された場合には母校同窓会事務局までお知らせください。

毎年、会報の「宛先不明」返送数が増加しております。せっかくの情報が届けられませんのでよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

尚、個人情報に関しては、会報発送、同窓会関係の照会・連絡以外には使用いたしません。

4. クラス会、同期会、部活OB会等の記録をお寄せ下さい

同窓会の最小単位はクラスです。まずは、担任の先生を中心にクラス会をまとめてください。さらに水平展開して同期会へ発展させて下さい。また、部活OB会は異学年交流の垂直展開です。これも同窓会にとって大事な活動です。

クラス会、同期会、部活OB会などの実施報告(写真歓迎)がありましたら、「会名」「時と場所」「参加人員」「幹事感想」「集合写真」など母校同窓会事務局まで毎年12月末までにお知らせ下さい。(原稿・写真は原則としてお返しできませんのでご承知おきください)

また、「集まりの予告」でも結構です。「シャロンの花」は毎年3月に発行されますので、その後に計画されている集まりの予告、呼びかけをしてください。

(原稿は母校同窓会事務局まで)

定期演奏会参観報告

散ればこそいとど定演はめでたけれ

5月3日には吹奏楽部、5月23日にはマンドリン部の定期演奏会が、ともに千葉市民会館で行なわれた。卒業してから日が経ち、パンフに掲載された名前は全く知らないのだが、そのホールの中で懸命に咲く花はいつも観客を感動の渦に巻き込む。

いずれも格調高いクラシカルな曲調から、ポップスなど乗りの良い親しみある曲へと移っていく、いつもの展開。

昨年に比べると、野球部やラグビー部の生徒による共演で盛り上げが更に増してきたような印象だった。そしてもう一つ印象に残ったのは、中盤に出てきたお伽話をモチーフにした寸劇で、我儘な困り者が、ただ頭ごなしに抑圧されるのではなく、自分に向き合ってくれる誰かと出会い触れ合うことで、本来自分が求めるものに気付いて改心し成長していくストーリーに、日々ぶつかりつ

つ成長する彼らの側面が垣間見えたことだ。

目まぐるしく変わる一曲一曲の各局面に、彼らは完成度を高めようと日々努力してきて、この一生一度の舞台に一発勝負をし、そして尚且つ音楽を楽しむ。その中で序盤は不慣れから、終盤は疲れから幾つか失敗するが、失敗に気を取られる暇もなく、その楽しい時間に未練を残すのも構わず、音楽は前へ前へと進み、いずれ終わりはやって来る。

何しろ彼らには時間が二年ちょっとしかない。私は吹奏楽部に入部した当初、五月の引退を早過ぎると思ったが、長く続けても終わりは必ず来るのだ。そしてその終

わりは目指す一つのゴールを明確に示す一方で、彼らを少なからず焦らせ、時には希望を打ち砕き、何かしら悔いを残す。だがその悔いは裏を返せば、懸命に更なる高みを目指していた何よりの証拠で、二度と上書きされないが故にいつまでも変わらず心に残る。だから彼らは尚更懸命に咲き誇り、泣きながらも潔く散り、その続きを心に咲かせるのだ。

散ればこそいとど定演はめでたけれ。今年もまた、その永遠に咲く花を愛でよう。

(市原 俊介 高校第45回H5卒)

国際交流米国派遣報告

引率教諭 水鳥 治行

平成20年度の国際交流派遣プログラムは、3月15日(日)から3月26日(木)までの12日間の日程で行われ、米国ミシガン州デトロイト郊外にあるクラークストン高校へ、10名の生徒が派遣されました。

クラークストン高校は、三年制の公立共学校であり、



1,850人の生徒が学ぶ学校です。本校と同様、上級学校への進学率が高く、ミシガン州の模範校に指定されています。生徒は、様々な教科・科目を履修することができます。日本語並びに日本文化を学ぶ講座も開設されています。

クラークストン高校では日本紹介のプレゼンテーションが主な活動となります。現地に着いて、ホームステイが始まり、クラークストン高校でのプレゼンテーションを中心とする活動が一週間続きました。このプログラムを担当するフェイ先生の日本語の授業だけではなく、社会の授業や外国語の授業でも発表し、また、ミドル・スクールにも出向いてプレゼンテーションを行いました。日本での準備の甲斐あって、生徒達はすばらしい発表を展開しました。

クラークストン高校での一週間が終わると、3泊4日のニューヨーク研修があります。自由の女神、グランド・ゼロ、国連ビル、メトロポリタン美術館などを見学しました。夜間には、エンパイア・ステート・ビルからの夜景、本場ブロードウェイのミュージカル「オペラ座の怪人」も鑑賞しました。ニューヨーク滞在中は天気にも恵まれ、たいへん充実した研修を行うことができました。

最後に、同窓会をはじめ、このプログラムをご支援いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。

延べ4000人を集めて 第46回 東雲祭 開催

東高生最大の学校行事である東雲祭が平成21年9月5日(土)6日(日)の二日間に亘ってOBや他校生徒も交え延べ4000人を集めて開催されました。折から新型インフルエンザの流行期でありましたが、母校生徒の熱意が天に通じたのか無事開催にこぎつけたそうです。1年から3年までの24の全クラス、各部活動、同好会、有志グループなど多数の団体が参加しました。

今年は、高学年の各クラスが出演した演劇や体育館での音楽演奏に人気が集まっていたとのこと。東雲大賞は、3年4組の演劇「美女と野獣」でした。

毎年思うことですが、一体いつ準備したのだろうと思われるほどレベルも高く、感心するばかりです。

同窓会会員の皆様も是非母校生徒の活躍を参観してみてください。(例年9月初旬開催ですので詳細は母校同窓会事務局にお尋ねください)

(高橋 一郎 高校第9回S32卒)



3-6 演劇「ヘアスプレー」



東雲祭で東雲大賞を受賞した「美女と野獣」に出演の3年4組の皆さん



マンドリン楽部



吹奏楽部

各地で同期会・支部会・地区会 活発に開催

各地で同期会・部活動OB会、クラス会などの活動が盛んになってきました。今回も各地から編集部にご寄せられたご寄稿をご紹介します。

第4回東雲会ゴルフコンペ

平成21年7月20日(月) 海の記念日。好天の中、山武グリーンカントリークラブにて、中国(西安)から駆け付けた木村行幸先生(元佐倉東高校校長)や新らたに参加された紅一点の安川民恵さんも交え、新ペリア方式で和気満々楽しくプレーしました。

結果は、優勝 井戸川 浩氏 41/48 H15.6 N73.4 (高校第11回S34卒 同窓会長)、1位 丸 尚作氏 41/43 H9.6 N74.4 (元千葉女子高事務主幹)、2位 安川民恵氏 45/43 H13.2 N74.8 (高校第35回S58卒 県立柏陵高校書道教諭)、3位 中村由貴彦氏 47/46 H18.0 N75.0 (高校第17回S40卒同窓会幹事)でした。(尚、1位の丸

尚作氏はベスグロでもあります。)

賞品は、澤田幹事の手配する“次々と新しいメンバーが生まれますように”との思いを込めた恒例好評の「沢山の野菜と生みたての卵」でした。



スタート前にパチリ

平成22年度も7月19日(月) 海の記念日に開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

(幹事 澤田 繁信 高校第23回S46卒)

お申し込みお問い合わせは

澤田 (☎043 261 4528 ギアレックスチバ株式会社) まで。
(ただし、お申込みお問い合わせの受付時間は昼間のみですのでご協力ください)

高女2・3回生懇親会（昭和21年・22年3月卒）

平成21年6月20日(土)

千葉ワシントンホテル レストラン銀座にて18名参加。

《幹事から一言》

今年は前年の12名から18名と嬉しく増加しました。

相変わらず元気な皆さんのお顔に加えて今回はめでたく80歳を迎え傘寿となったことから喜びをひとしお深く感じました。和やかな雰囲気の中で、手作りアクセサリー等の話に見花が咲き、口々に「楽しかった」「来てよかったわ」「次回も元気に参加したい」などの声に満ち、会の重みを味わえました。

今回は恒例6月第3土曜日（平成22年6月19日）です。会場は、「そごう」千葉店 地下1階 自然食バイキング“は一べすと”です。有意義な話題が交わされることを楽しみにしております。

（高女第2回S21卒 小林美代子）



昭和34年卒（高校第11回）

3E井下田ルームクラス会

平成21年10月9日(金)

千葉市 鮭割烹みどり（旧みどり鮨）にて。

《幹事から一言》

相変わらずお元気な井下田 博先生を囲み12名が集まりクラス会を開催しました。

「酒の相手に話の相手、苦勞しとげて茶の相手」などと言いますが、男女を問わずそれぞれなりに生き抜いてきた懐かしい顔が揃い先生もご満足の様子でした。

老いの衣を脱ぎ捨てて……。一瞬で18歳の高校生に戻れる不思議なタイムカプセル……。クラス会。

病気と薬の話と時々孫自慢の他愛ない時間ですが、元気でやってこられたことの幸せをかみしめたことです。

やはり高校時代は懐かしいなと感じたひと時でした。

（幹事 井戸川 浩）



平成22年 野球部OB会 新年会

1月23日(土) 京成ホテルミラマーレにおいて恒例の野球部OB会新年会が開催されました。

新年会には藤代OB会長をはじめOBが16名、父母会の役員の方3名の他、元監督の津島先生（現追浜高校勤務・前高野連理事長）、濱井先生（現佐倉西高校校長）にもご臨席を賜り、和やかに開催されました。OB会の活動もなかなか厳しい状況ではありますが、昨年5月から本校野球部OBでもある私が監督に就任し、現役とO

Bの連絡調整も図っていききたいと思います。現役の支援はもちろんのこと、OB会の活動が少しでも充実していくことを祈念します。

（高橋敏行 高校第28回S51卒）



みとりのお山にかこまれた幼稚園

若松台幼稚園

当園は、3千坪を越える園庭、四方木々に囲まれた自然の中で、

- ・友だちとのふれあいを大切にする。
- ・情操豊かな心と自立心の芽生えを養う。

集団の中で基本的習慣は勿論のこと、望ましい経験を積み、個性を伸ばすことを念頭に日々研鑽を重ね、年齢に応じ同じ経験をさせ、どの子にも喜びと自信が持てる保育活動を展開し、毎日の積み重ねと愛情を持って元気・根気・やる気がそだつよう日々努力しています。

理事長 田中 信行（昭45卒）

〒264-0021 千葉市若葉区若松町401
TEL 043-232-5177
FAX 043-232-5178

剣道部OB会 三紫会 総会 新年会開催

平成22年 1 月 9 日(土) 千葉市中央区美弥和にて総会並びに新年会を開催しました。

剣道部は本年 3 月に第56期の卒業生を送り、500名を超える会員を数えるまでになりました。

三紫会では、毎年会員に剣道部機関紙「東風百事」を発送、情報を発信し結束を図っております。

当日は、昨年に引き続き第 3 代剣道部顧問の石川宏先生と井戸川同窓会長のご出席も頂き、お二人より母校の伝統を引き継ぐ剣道部へのご激励のご挨拶をいただき、総会に入りました。

議事は、事業報告、会計報告、新年度予算、平成25年の剣道部60周年記念事業積み立て金の積み立て促進、役員の再任などが提案されすべて承認されました。

また、在校生から最近の部活動の報告があり総会は終了いたしました。

総会終了後この一年間に逝去された 3 名のOBの方々のご冥福を祈り、一同で黙祷を捧げました。

その後、卒業 2 年目の若いOBの司会、三紫会初代会

長の永井昌夫会長のご乾杯のご発声で、新年懇親会に移りました。古希を超えるOBから現役の大学生など若いOBまでが一堂に会して、企業、大学での活動など剣道談議に花を咲かせ和やかに懇親を深めることができました。

また、母校剣道部への積極的な支援と、原則毎月第 4 土曜日の合同稽古会への参加の呼びかけがありました。

最後に参加の先輩方のご健康と、母校剣道部の発展を祈念して予定の 2 時間を大幅に超えて参会しました。

(三紫会会長 市川 豊 高校第13回S36卒)



永井会長のご乾杯

石川先生のご挨拶

昭和32年卒（高校第 9 回）同期会 開催について〈予告〉

平成22年 6 月、2 年ぶりの同期会を開催する予定であります。各クラスの幹事とも相談のうえ、後日改めてご案内状をお送りいたしますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

(代表幹事 高橋 一郎)

同窓会活動維持基金

同窓会活動は、母校の状況と卒業生の動向をお知らせする会報「シャロンの花」の発行と、部活や教育活動で母校発展のために活躍する生徒や、それを指導する先生方を後押しする母校教育活動への金銭的支援活動です。

県下でも注目を浴びている母校の教育活動への支援に、更なるご後援をお願いいたします。

創立100周年祈念70周年記念事業基金

創立70周年(2011年)まであと 1 年。更なるご後援をお願いいたします。

お支払いはお手数ながら、同封の郵便振替用紙にて 1 口 2 千円、何口でも結構ですので、ご送金下さいますようお願い申し上げます。

郵便振替口座 00160-8-148932 千葉東高等学校同窓会

編集後記

第14号をお届けいたします。

鳩山新政権になっても一向に景気は回復致しません。

現役の皆さんも年金受給の皆さんも日本を代表する航空会社の問題など日本の超一流企業の挫折で背筋が寒くなったかもしれませんね。

●そんな中、若き母校生徒の文武両面にわたる活躍が種々報告されています。

一方卒業生も各地でクラス会、同期会、部活OB会を重ねています。

こうした活動が活発になればなるほどみんな元気になりますね。

母校 間もなく70周年。母校はこれからも大きく変わっていくでしょう。母校の動向から目が離せません。

どうか、これからも「シャロンの花」をご愛読下さい。

(編集委員一同)